

宮崎の小さなランドスケープの価値を考える



南九州大学 環境園芸学部
環境園芸学科（庭園デザイン学研究室）
講師

牧田直子 まきた なおこ

1963年栃木県生まれ。関東学院大学文学部英米文学科卒業後、株式会社レジャー産業研究所（東京）にて国内の観光地及びホテル・旅館・民間保養施設などの経営コンサルタント業務、主に市場調査、経営指標作成、設備投資計画、CIデザインやインテリアの提案など多岐にわたって携わる。1998年に株式会社ユニバーサルホーム（フランチャイズ本部）に入社、市場調査、販売促進（テレビ・新聞・雑誌などの広告宣伝、新聞折り込みチラシ、パンフレット作成、イベント企画など）に携わる。2007年当時ガーデニングブームだったことから、週末に町田ひろ子インテリア

アコーディネーターアカデミーのガーデニングプランナー科に通う。2008年一念発起し退職、東京農業大学大学院（農学研究科造園学専攻）を受験、同4月に入学、45歳で大学院生になる。2010年3月、修士（造園学）（Master of Landscape Architecture）取得（修士論文題目「オーストラリアにおける日本庭園の受容史」）、卒業後、同大学にて海外の日本庭園を主題に研究活動を行いながら一般住宅のガーデンリフォーム、植物を用いた装飾などにも携わる。2014年一般社団法人ハウスワランティ営業推進部に再就職し住宅工務店を対象としたコンサルティング業務を担う。会社員をしながら細々と研究活動を続ける。2015年メディカルハーブコーディネータの資格取得。2017年、南九州大学環境園芸学部環境園芸学科講師（庭園デザイン学研究室）となり現在に至る。講義では、造園史、住宅庭園設計、造園ガーデニング実習などを担当。研究室では、宮崎の庭園の維持管理や利活用促進を中心に研究活動、ボランティア活動、ハーブを用いた市民講座などを行っている。

はじめに

宮崎の景観については、南九州大学の関西教授が、岩切章太郎の景観手法や今後の施策などをご研究されている通り、南国をイメージしたダイナミックなシークエンスであり、宮崎らしい景観、さらには観光に結び付けるべく取り組みが行われている。1968年からフラワーショーが開催されてきたが2011年に終了、2019年、宮崎県は県民の心豊かな暮らし及び活力ある地域社会の実現に寄与することを目的とした「美しい宮崎づくり推進条例」を制定した。「日々の暮らしが地域の景観の形成に深い関わりを持つことを認識し、自ら進んで美しい宮崎づくりに努める」こと、「地域社会の一員として、地域で行われる取組に参加するよう努める」ことを県民の役割としている。

私は、海外の日本庭園や、日本国内では戦後につくられた公開日本庭園（運動

公園など公共施設につくられた日本庭園）について研究してきた。2017年に宮崎に赴任し、まずは宮崎にある日本庭園を見て廻った。そして、現在では、学生と一緒に主に花や緑について市民と関わることが多くなった。そこで本稿では、これまで研究してきた宮崎県の日本庭園、関わってきた庭園や花壇、街づくりを通して、宮崎の小さなランドスケープの価値を再考したいと思う。

宮崎には荒廃から守り保全して残すべき価値ある日本庭園がある （日向市の日本庭園）

宮崎県内唯一の国指定名勝庭園である「妙国寺庭園」（日向市）は南北朝時代または江戸時代中期に作庭された池泉回遊式庭園と言われている。自然の地勢、岩盤を利用した露盤を形成し、柱状節理の石を立てた見事な庭園景に目を奪われた。

おそらく高千穂峡の景を意識したものではなかろうか。宮崎ならではの自然が生み出した地勢を活かした素晴らしい庭園である。日本全国見てもこのような日本庭園はとても珍しく宮崎の貴重な財産である。しかし、露盤の水の枯渇、池の水の漏水、植栽の繁茂など、崩壊寸前の大変な状況であることもわかった。妙国寺庭園については、平成13年までに10回以上改修工事が施されてきたこともわかったが、2018年の時点では年間の維持管理費もままならない状況であった¹⁾。日向市にはこのほかにも「橋口氏邸庭園」「歴史民俗資料館中庭」「美々津軒中庭」「関本勘兵衛家住宅中庭」「矢野力二邸庭園」と、歴史的建造物に付随する庭園があることがわかったが、どの庭園も荒廃していると言わざるを得ない状況であった。国指定という歴史的にも空間的にも評価され宮崎ならではの要素が詰まったこれらの素晴らしい庭園がかりげに存在している。きちんと管理し我が町の財産として、あるいは観光の一助として活用するべきであると考え。

宮崎には価値を正しく認識し守っていくべき日本庭園がある (日南市の日本庭園)

日南市飢肥は昭和51年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されて、宮崎の観光名所としても重要な存在となっている。この地区の中心に位置する大手門近くの豫章館は、飢肥藩の典型的な武家屋敷で一般公開されている。豫章館には広間から一望できる庭園がある。豫章館

のホームページでは「南面一帯は武学流の作庭といわれる庭園で、広い空間に庭石や石灯笼・庭木などが巧みに配置され、閑静な佇まいの枯山水式庭園である。」と表記されている (<https://objiyo.com/ayumimap/yoshyoukan/>)。2019年に豫章館庭園の整備について学生と共に検討していたところ、この「武学流」とは何なのか？という話になり調べてみるようになった。みると豫章館庭園をPRするものには「武学流」という言葉が切り取られて使用されていることがわかった。1974年の林泉協会の視察で著名な造園家、重森三玲が豫章館庭園を「武学流のつくり」と賛辞したという新聞記事が残っていたことから、これ以降「武学流」という言葉が使われてきたと考えられる。「武学流」というのは、東北津軽地方に伝わる作庭技法で、青森県弘前市教育委員会がその内容を調査報告書としてまとめており、同委員会担当者によると、宮崎に存在するとは考えにくいという話であった。そこで、この委員会がまとめた「武学流」の構成要素を豫章館庭園に当てはめてみたところ一致したのは3割に満たなかった。豫章館庭園は「武学流」ではなく、「愛宕鼓ヶ岳を中心とした小さな山々を借景に、飢肥盆地における圍繞感を体感できるパノラマ景、庭園内の景物を楽しめる周遊庭園」という飢肥オリジナルの価値を再認識すべきと提言した²⁾。この豫章館庭園は国の指定も県の指定もない庭園であるが、これらの価値を優位に維持管理していけば、県の指定、国の指定も受けられると思う。

しかし、豫章館庭園に対する住民（飢肥まちづくり協議会、商店会の会員）の意識調査（回答80名）を2020年に実施したところ、歴史や価値、荒廃状況を知っている住民は約35%、特に商店会会員が知らないということが明らかになった。思い入れが深い方は幼いころ遊んだ記憶や生涯学習講座などで学んだ記憶があることがわかった³⁾。庭園のことを知ることの重要さは明らかである。実は飢肥には、国の登録記念物に指定されている「旧伊東伝左衛門庭園」、「旧報恩寺庭園」、県指定名勝として「勝目氏庭園」をはじめ、多くの庭園が存在していたことから、平成23年度には「飢肥城下町庭園群調査」（文化庁と日南市）が実施され、いかに守っていくかを検討している。しかし、「旧伊東伝左衛門庭園」「勝目氏庭園」の敷地建物は県外の企業が1棟貸の宿泊施設としている。飢肥は伝建地区として

美しい街並みではあるが、その中にある庭園の状況は把握できていないのが現状である。「旧報恩寺庭園」は地域で池の清掃などを行っているが、植栽の繁茂をはじめ荒廃が気になる状況である。住民による保全保護、修復、活用には限界があり、もう一步進むには、もう少し大きな力、つまり企業や専門家が積極的に関わっていく必要があると考える。

宮崎の日本庭園のこれから

この他にも、県内には観光名称となりうる日本庭園が存在する⁴⁾が、それらを知る県民は少ないのではないかと感じている。また、日向の妙国寺庭園も日南の飢肥も、ホームページなどに掲載されているのは美しい時の写真である。実際に行ってみたところ、来園者はどのような印象を受けるのだろうか。価値があること、宮崎オリジナルであることをきち

表－1 宮崎の日本庭園一覧（2018年 町田・牧田）

NO	庭園名	所在地	一般公開または開園年	面積(m ²)	回遊式	池	事業主
1	橋口氏庭園	日向市	室町	約619.17		○	個人
2	旧報恩寺庭園	日南市	安土桃山	庭園 1,528.32	○	○	飢肥地区自治会
3	旧伊東伝左衛門庭園	日南市	江戸	全体 1,960.32			日南市
4	日向市歴史民俗資料館	日向市	江戸	約20			日向市
5	妙国寺	日向市細島	江戸時代中期	庭園 約2,810	○	○	妙国寺
6	延岡市内藤記念館 日本庭園	延岡市	明治25年 (昭和38年 昭和40年)	庭園 約1,500 敷地全体 12,171.07	○	○	延岡市
7	竹香園	日南市	明治40年 公園 昭和32年	庭園 約10,000 公園全体 約47,000	○	○	日南市
8	豫章館庭園	日南市	(昭和56年)				日南市
9	日向景修園	宮崎市	昭和56年3月 公園 昭和57年2月	13,000 全体 1,022,000	○	○	宮崎県
10	文化の森宮崎中央公園	宮崎市	昭和57年	約3,000	○	○	宮崎市
11	法華嶽公園日本庭園	東諸県郡国富町	昭和	全体 350,000	○		国富町
12	都城島津邸	都城市	(平成22年)	全体 15,393.71			都城市
13	宮崎神宮	宮崎市	不明		○	○	宮崎神宮
14	都農神社	児湯郡都農町	不明		○	○	都農神社
15	矢野庭園	日向市	不明	約2,000	○	○	日向市
16	美々津軒	日向市	不明	約20			日向市
17	関本勘兵衛住宅 中庭	日向市	不明	約22			日向市
18	萬福寺 楽山園	東諸県郡国富町	不明				萬福寺

んと伝え、適切に整備していくことが望ましい。荒廃しつつある日本庭園を市民からの要望で保全・整備し、観光利用として活用でき国の名勝指定となった日本庭園が新潟県にある。海外の日本庭園でも、存続をかけて様々な取り組みが行われている。米国イリノイ州のアンダーソンガーデンは、周知されるためにロックコンサートを行い、周知されたのちに会員制度をつくり、会報誌の発行や再来園の仕組みをつくり、季節ごとに楽しんでもらう日本庭園になった。また、米国ポートランド日本庭園は世界的にも有名になっているがその運営手法はアメリカならではのものである。庭園のすばらしさ、環境保全の観点から企業スポンサーを募ったのである。企業はCSR (Corporate Social Responsibility) 活動として日本庭園の維持管理、活用の応援に寄与しているのである。宮崎の日本庭園も利用価値はある。価値を知り高め、整備し維持活

用していき、未来に残していくためにも、宮崎県内の産官学が協働で取り組んでいきたい問題である。

草花が好きな市民の活動

こどものくには、フラワーフェスタのメイン会場にもなっていたが、2017年には遊具を撤去し芝生の広場として整備された。バラ園も存続の危機にあったが、ガーデナーの源香氏とボランティアグループ「ときどき花くらぶ」によって再生、存続している。このボランティアグループのLINEに登録されているメンバー184名にアンケートを実施（2020年、回答数71人）したところ、最も多いのは、参加年は2020年（42%）、参加理由は「草花が好きだから」（70%、複数回答）、参加動機は「友人知人の紹介」（53.7%）、好きな作業は「除草」（66.2%、複数回答）であった。そしてLINEグループに登録しているが、実際に管理活動を行ってい



写真-1 こどものくにバラ園での実習（2022年6月）

ない人が43.7%いた⁵⁾。このLINEでは、活動の状況やガーデンの様子など写真なども共有されているが、見ているだけでも楽しいという意見がある。参加には消極的であるが興味がある人もいることがわかる。こどものくにバラ園は、潤沢な予算があるわけではないが、様々な人の応援をうけて、無料で美しい花々を見ることができる場所となっている。南九州大学環境園芸学科でもバラの剪定や植栽管理など実習の場として活用させていただいている。

多年草の草花と管理で人をつなぐまちづくり

花の時期が終わりに近づいたら抜いて、別の花苗を植える、1年に何回か植え替えを行う単年草植栽が多くみられるが、近年、毎年咲く花を季節ごとに開花するようにデザインした多年草植栽がみられるようになった。ニューヨークのハイラ

イン（廃線鉄道の高架線路を植栽と遊歩道にリフォームした）の植栽をデザインしたガーデンデザイナーのピット・アウドルフ（PIET OUDOLF、オランダ）が世界中から注目されている。多年草を用い、季節ごとや植物の枯れた姿までも楽しむ、自然景を思わせるようなガーデンデザインは、これまでのイングリッシュガーデンの流れやSDGsの後ろ盾もあり、日本国内にも増えてきている。

エコパークに登録されている綾町は「花いっぱい運動」を展開し、約600ヶ所の花壇・植栽スペースに花の時期が終わったら植え替えを必要とする単年草を植栽しているが、2018年より神奈川県横浜市をはじめ、国内外でナチュラルな植栽デザインを行いつつ普及活動を行っているガーデナーの平工詠子氏の指導のもと、毎年開花し、植え替えを必要としない多年草植栽を取り入れ、綾町の里山の風景になじむ花壇づくり活動「みんなで



写真-2 綾町ナチュラルガーデン錦原での実習（2022年4月）

つくる綾町花壇プロジェクト」を行っている。ボランティア活動の場として、またシルバー人材センターの活用につながっている。費用も単年草の植え替えを行っていた花壇より抑えられているという。今後も少しずつ多年草の植栽に変えていく予定であるという。当大学の学生も設計、施工、管理に加わり、学びの場として活用させていただいている。

市民がつくる九州ガーデン街道をめざして

抜いて植えるという作業は単純作業であるが、多年草の管理は、植物の成長に見合った維持管理が必然となる。美しい草花の景色を維持するためには植物の成長を見守り管理できる手業が必要である。欧米では、ガーデンデザイナー、ガーデナー、ガーデンキュレーターなど職業として確立している。

宮崎市が管轄する「木漏れ陽のガーデン」(国際海浜エントランスプラザ内)も、2020年より平工詠子氏の指導で多年草や球根類を用いた植栽が展開され市民ボランティアを募った普及活動が始まっている。また、宮崎駅から繁華街に伸びた「高千穂通り」では、前述した宮崎県の「美しい宮崎づくり推進条例」の取り組みとして、多年草を中心とした植栽を主とした「花みちプロジェクト～高千穂通りを花で元気に～」を2020年より行っており、現在花みちクルー(ボランティア)約20名が月2回集まり、植栽や管理を行っている。そこに、草花や環境に関心のある市民が少しずつ参加するようになってきた。

このような動きは、宮崎だけではなく、福岡や熊本でも見られる。福岡市植物園には様々なボランティアグループがあるというが、これから多年草を中心に植物を管理できるガーデナー養成講座を始めようという試み「ねづくプロジェクト」が始まった。熊本駅周辺の植栽地も多年草に変わり「ゆるっとナ」というガーデンボランティアが活動している。週1回2時間程度の管理活動には常時10名が集まるというがFacebook会員は約190名も登録されているという。そして、これらの活動の中心となっている九州のガーデナーたちは情報を共有し協力しながら欧米並みに植栽による美しいランドスケープをつくらうとしている。単年草だけではなく多年草を用い、管理することで人々がつながる、植物を大切に思い、美しいまちづくりを実現する試みである。北海道ガーデン街道は今や観光ルートとして確立しているが、北海道とはまた違ったもの、市民がつくるそれぞれの街の風景を楽しむような九州ガーデン街道の実現には大いに期待したいし応援していきたいと思う。

おわりに

人は原始時代から植物の恩恵を受けて生きてきている。栄養補給だけではなく心の癒しを与えてくれるし、空気の清浄、防風、ヒートアイランド対策など人にもたらす効果は多大である。植物とうまく共存して生きていくべきである。庭園、特に日本庭園と言うものは、自然を模写し身を置くことで心を静める人がつくっ

た空間であり、日本独自の文化である。海外にある一般公開されている日本庭園は500以上確認できる。宮崎には宮崎ならではの日本庭園が存在し、その価値を再考し、利活用することは可能であると考え。また、草花や自然の風景を美しく大切に思う市民の動きもみられる。特に2018年以降、行動を制限され生活スタイルが大きく変化し、自然感、植物への関心も高まってきている。市民が大切に思う小さな空間、小さな活動を続けていくこと、応援していくことは未来へ向けてとても重要であると思う。

私たち南九州大学環境園芸学科では庭園や植栽のボランティアのみならず、農家や自然環境に関しても地域と連携している。2021年に農林水産省が提唱している「農業女子プロジェクト“チームはぐくみ”」に参画し、宮崎で頑張っている農業女子の方々との交流を行っている。イベントで販売する農作物を種から育て販売するまでのお手伝いをしている。学生

は、植物の生育や管理のみならず、植物の大切さ、人と人のつながりを体験させていただいている。若者がこれから社会でどのような役割を果たすべきなのか、植物をどう向き合っていくのか、花や緑の空間をどう活用していくのか、未来の美しいまちづくりのために、これからも地域と関わっていきたいと思う。

参考文献

- 1) 牧田・丸山 (2019) :日向市における日本庭園の現状と課題 : 日本造園学会九州支部研究・事例報告集 Vol.26、99-100
- 2) 石井・牧田 (2020) : 豫章館庭園における価値の再考と今後の管理の方向性について : 日本造園学会九州支部研究・事例報告集 Vol.28、13-14
- 3) 牧田・八木 (2021) : 宮崎県豫章館庭園に対する地域住民の意識について : 日本造園学会九州支部研究・事例報告集 Vol.29、25-26
- 4) 町田・牧田 (2019) : 宮崎における日本庭園に関する基礎研究 : 日本造園学会九州支部研究・事例報告集 Vol.26、13-14
- 5) 宮崎・牧田 (2020) : 宮崎こどものくに庭園ボランティアの参加動機と活動の実態について : 日本造園学会九州支部研究・事例報告集 Vol.28、47-48



写真-3 農業女子プロジェクト (2021年11月カラダグッド宮崎にて)